

企業の行動に期待／社内教育が大切

環境事業在り方考える

アクション21 山形で交流研修会



企業の環境事業の在り方などについて、意見を交わした全国交流研修大会
山形市・ホテルメトロポリタン山形

国内の中小企業などの事業所を対象にした新たな環境事業評価システム「エコアクション21」の全国交流研修大会が二十九日、山形市のホテルメトロポリタン山形で開かれた。研究者や専門家らによる基調講演やパネルディスカッションを通じ、企業として社会的信頼を得るための環境に対する意識や事業の在り方などについて考えた。

エコアクション21は、環境省策定の「環境経営システム・環境活動ガイドライン」に基づき、地球環境戦略研究機関「持続性センター」が、新たな環境事業評価の認証・登録制度として設けた。中小企業や学校、公共機関などを対象にし、全国七百八十一事業所(五月末現在)が認証・登録を受けている。交流研修大会は、同センターの認定を受け、制度認証を担当する全国各地の「審査人」や、制度に関心のある中小企業や公共機関などの担当者ら約三百人が参加した。

パネルディスカッションでは、「二十一世紀の環境事業は、企業が考えるべきことへの期待が大きい。事業を選択し、優先順位をつけること」が経営者としての重要な役割だ。「環境に対するパフォーマンスをいかに経営に結び付けるか。経営者も含めた社内教育が大切」「行政として地域全体に環境改善活動を広げていきたい」などの意見が出された。きょう三十日は分科会形式の研修を行う。